

北海道スタディ参加者の皆様へ

北海道大学では機関長の許可を得て、下記の研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、既に提供された情報（生体試料含む）を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。データの利用・提供を拒否することによる不利益はありません。また、データ利用・提供を拒否したとしても「環境と子どもの健康に関する北海道スタディ」への参加を取りやめることとはなりません。

研究課題名（研究番号）	児のフタル酸エステル曝露と思春期発来時期、手指長比との関連、およびそのメカニズム
北海道大学の研究責任者（所属）	池田 敦子 (北海道大学大学院保健科学研究院・環境健康科学研究教育センター兼務) Megasari Marsela (北海道大学大学院保健科学研究院)
他の研究機関および各機関の研究代表者	なし
本研究の目的	児の7歳時フタル酸エステル類曝露と (a)思春期発来時期、(b)2D4D比との関連、およびそのメカニズムとして介在する(1)生殖ホルモン、(2)IGF-1、(3)オステオカルシンを明らかにすることである。
研究実施期間	研究機関の長の許可日から2027年3月31日まで
調査データ（該当期間）	2002年4月から2023年12月まで
研究の方法（利用する資料・情報等）	【対象となる参加者様】北海道スタディ大規模コホートの参加者のお子さまのうち、思春期対面調査に参加された方。 【利用する試料・情報】 14-17歳の児から収集した血液検体（300～500uL）を用いてバイオプレックスアッセイによりIGF-1とオステオカルシンのバイオマーカー測定、ELISAを用いた生殖ホルモンの測定を行う。さらに、7歳時に収集した尿を用いて測定されたフタル酸エステル類濃度を曝露、14-17歳収集済みの思春期発来および掌コピーの情報を用いて統計解析を行う。
試料/情報の他の研究機関への提供および提供方法	当研究のコホートデータは、対象となる参加者様の情報に対して個人が特定されない匿名情報処理を行い利用します。共同研究機関とのやり取りに際しても、個人の特定につながらない状態に加工した

	<p>情報を用います。最終的に集積したデータの保管はアクセス者が制限されているサーバー等に行い、パスワード機能を伴う SSD または学内 ELMS ファイル宅配機能を用いて北海道大学内での移動を行います。最終的なデータは北海道大学にて解析予定です。</p>
<p>試料・情報の二次利用</p>	<p>IGF-1 とオステオカルシンのデータは、二次利用の可能性があり、その際には各機関のホームページ等で告知を行います。</p>
<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>この研究において対象者の情報を扱う際は、個人情報とは関係のない符号または番号を付して匿名化致します。論文作成時、学会発表時には個人が特定できる情報は一切用いません。また、同意の範囲外において情報の利用を行うことはありません。対応表は北海道大学環境健康科学研究教育センターが責任を持って保管し、共同研究機関の間では対応表の授受を行いません。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究は、文部科学省の科学研究費（課題番号：23K1988403）で実施されるものであり、申告すべき利益相反はない</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>電話：011-706-3325 担当者：北海道大学大学院保健科学研究院・健康科学分野 池田 敦子、Megasari Marsela（メガサリ マルセラ）</p>
<p>備考</p>	<p>本研究は以下の通り審査承認済みである。 【北海道大学環境健康科学研究教育センター倫理審査委員会】 研究課題名：環境と子どもの健康に関する北海道研究（北海道スタディ：全道大規模コーホート） 研究代表者：岸 玲子 承認日：2023 年 10 月 31 日、承認番号 23-157 【北海道大学大学院保健科学研究院倫理審査委員会】 研究課題名：児のフタル酸エステル曝露と思春期発来時期、手指長比との関連、およびそのメカニズム 研究責任者：池田 敦子 承認日：2023 年 12 月 26 日、承認番号 23-82</p>